

平成 2 2 年度
川崎市青少年意識調査
報告書
＜概要版＞

平成 2 3 年 3 月

川崎市

第1章 調査実施の概要

1 調査の目的

川崎市では、昭和60年から5年毎に青少年の意識調査を実施している。今回の調査は、この25年間の動向の変化を把握するとともに、背景となる社会状況との関連、川崎市としての特徴等の観点から青少年の意識及び行動等の実態、行政に対する意見等を広く把握し、今後の青少年施策の基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査設計と回収状況

(1) 調査地域

川崎市全域

(2) 調査対象

川崎市内在住の満13歳以上24歳までの男女3,000人

上段：人数 下段：構成比(%)

	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	合計
男性	112 7.1	125 8.0	103 6.6	116 7.4	78 5.0	114 7.3	129 8.2	123 7.8	154 9.8	141 9.0	183 11.7	189 12.1	1,567 100.0
女性	112 7.8	115 8.0	105 7.3	108 7.5	83 5.8	118 8.2	112 7.8	105 7.3	126 8.8	140 9.8	155 10.8	154 10.7	1,433 100.0
合計	224 7.5	240 8.0	208 6.9	224 7.5	161 5.4	232 7.7	241 8.0	228 7.6	280 9.3	281 9.4	338 11.3	343 11.4	3,000 100.0

(3) 抽出方法

住民登録及び外国人登録のある者から無作為に抽出（平成22年8月15日現在）

(4) 調査方法

郵送配布・郵送回収法

(5) 調査実施期間

平成22年9月1日（水）～9月30日（木）

(6) 調査項目

・基本属性	・ニュースへの関心
・居住地	・携帯電話・パソコンの利用状況
・日常生活	・青少年の意識
・学校・職場でのグループ活動	・社会の問題
・地域での活動	・行政施策の認知度、要望
・ボランティア活動	

(7) 回収状況

調査対象	回収数	回収率
3,000件	1,094件	36.5%

3 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。

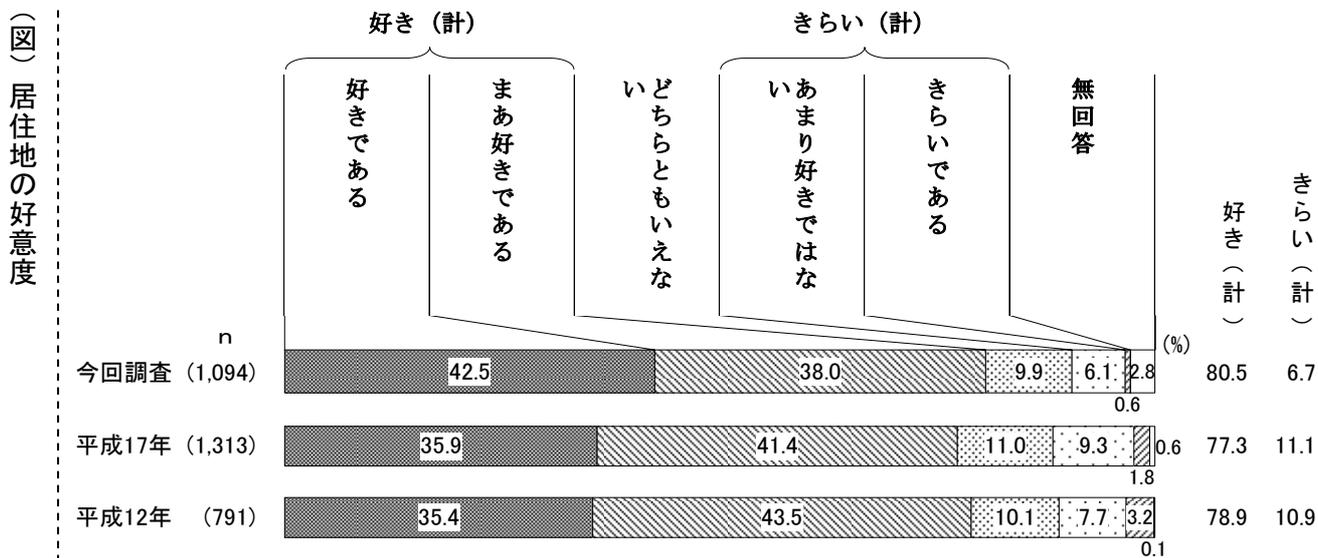
第2章 調査結果の概要

1 青少年の生活

(1) 居住地

ア 居住地の好意度

約8割の方が“好き(計)”と回答



居住地の好意度は、約8割の方が“好き(計)”と回答している。平成17年度調査に比べ、“好き(計)”は増えており、過去3回の調査で最大となった。

好きな理由は、「住みなれたところだから」が38.7%で最も多く、次いで「交通機関が便利だから」、「日常生活が便利だから」の順であった。

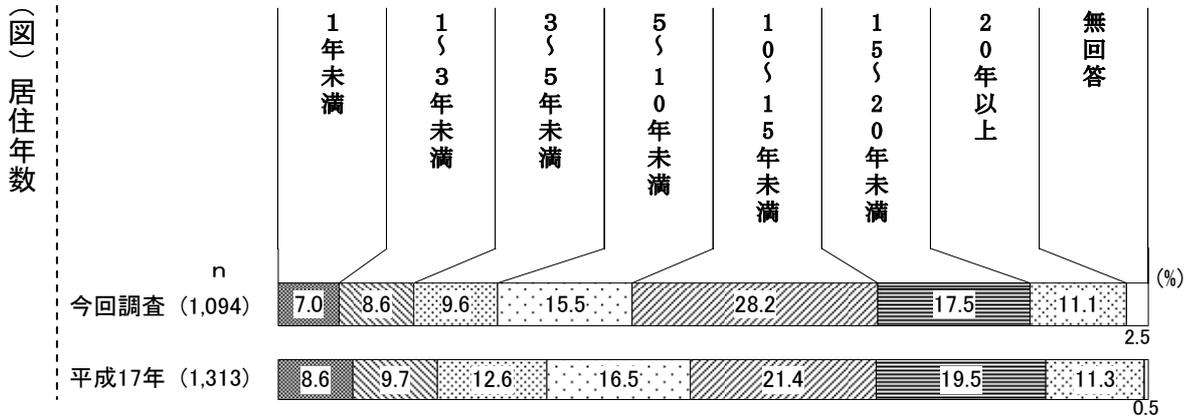
きらいな理由は、「交通機関が不便だから」、「自然環境がよくないから」、「住みなれないところだから」の順であった。

(n=1094)

居住地の好意度			好きな理由(上位3位) (n=881)		
好きである	465	42.5%	住みなれたところだから	341	38.7%
まあ好きである	416	38.0%	交通機関が便利だから	217	24.6%
			日常生活が便利だから	135	15.3%
どちらともいえない	108	9.9%	きらいな理由(上位3位) (n=74)		
あまり好きではない	67	6.1%	交通機関が不便だから	16	21.6%
嫌いである	7	0.6%	自然環境がよくないから	12	16.2%
			住みなれないところだから	12	16.2%
無回答	31	2.8%			
	(単一回答)			(単一回答)	

イ 居住年数

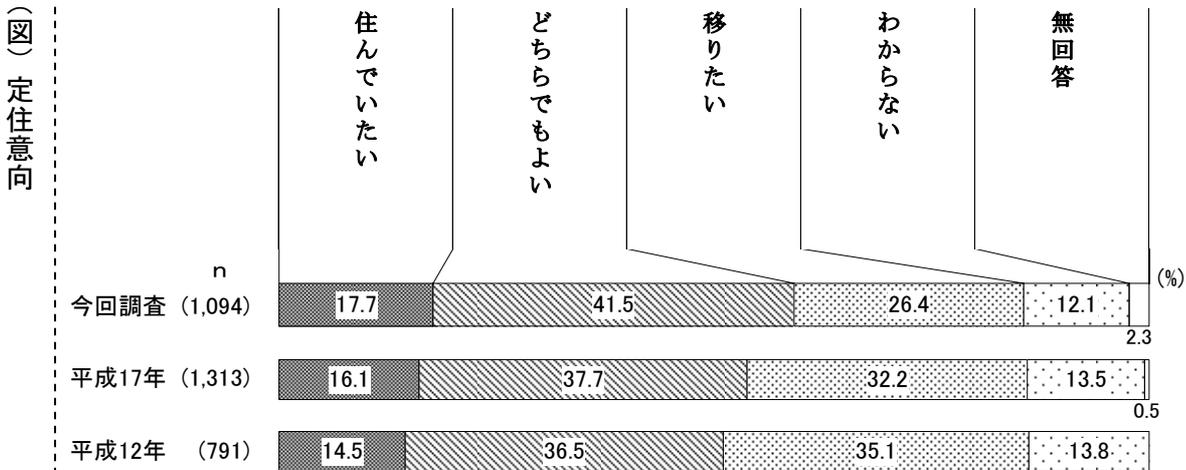
「10～15年未満」が最多



居住年数は、「10～15年未満」(28.2%)が最も多く、15年未満の合計で全体の約7割を占める。

ウ 定住意向

経年比較では、「住んでいたい」割合が増加傾向



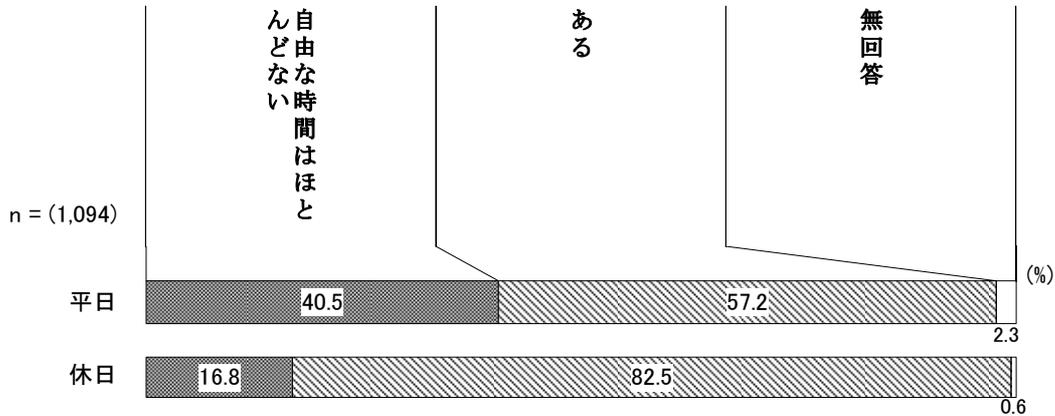
定住意向は、「どちらでもよい」が4割強で最も多く、「住んでいたい」と「移りたい」では「移りたい」割合のほうが多くなっている。経年比較では、「住んでいたい」割合は増加傾向にある。

(2) 日常生活

ア 自由な時間の過ごし方

平日は40.5%、休日は16.8%の方が「自由な時間はほとんどなし」と回答

(図) 自由な時間の過ごし方



平日の場合、40.5%の方が「自由な時間はほとんどない」と回答しており、休日の16.8%の倍以上となっている。

自由な時間の過ごし方として、平日の場合、「自分の家」で、「一人で過ごす」ことが多い。また、食事やおしゃべり、テレビ・DVD・雑誌などの鑑賞をしていることが多い。休日の場合、「自分の家」で、「一人で過ごす」ことが多い。また、買い物、食事やおしゃべりをして過ごしていることが多い。

		(n=1208)		(n=1744)	
		平日(上位3位)		休日(上位3位)	
場所	自分の家	581	48.1%	自分の家	691 39.6%
	学校	153	12.7%	デパート、ショッピングセンター等	327 18.8%
	デパート、ショッピングセンター等	125	10.3%	友達の家	151 8.7%
相手	一人で過ごす	436	36.1%	一人で過ごす	513 29.4%
	学校の友達(クラス・クラブ・部活)	314	26.0%	学校の友達(クラス・クラブ・部活)	411 23.6%
	家族	232	19.2%	家族	356 20.4%
過ごし方	食事をしたり、おしゃべりをしたりする	221	18.3%	買い物をする	291 16.7%
	テレビ、DVD、雑誌などをみて、のんびり過ごす	196	16.2%	食事をしたり、おしゃべりをしたりする	260 14.9%
	パソコン・インターネットをする	120	9.9%	テレビ、DVD、雑誌などをみて、のんびり過ごす	222 12.7%

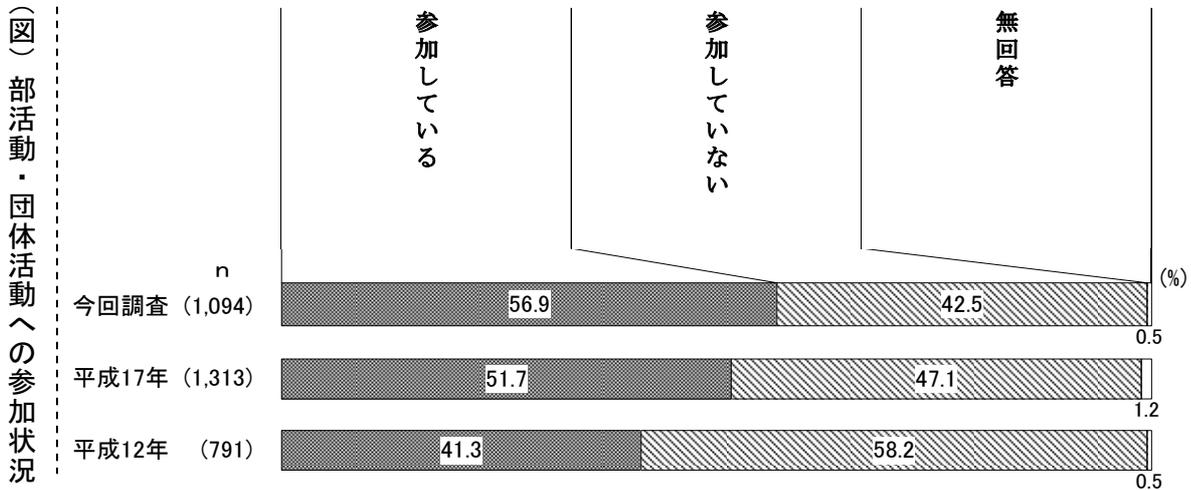
(複数回答)

(複数回答)

(3) 学校・職場でのグループ活動

ア 部活動・団体活動への参加状況

経年比較すると、参加割合は増加傾向



部活動・団体活動への参加割合は56.9%で、経年比較すると、参加割合は増加傾向にある。

参加理由は、「やりたいと思っていたことだから」が最も多くなっている。不参加理由としては、「やりたいと思っている活動がないから」、「忙しくて時間がとれないから」の割合が多い。

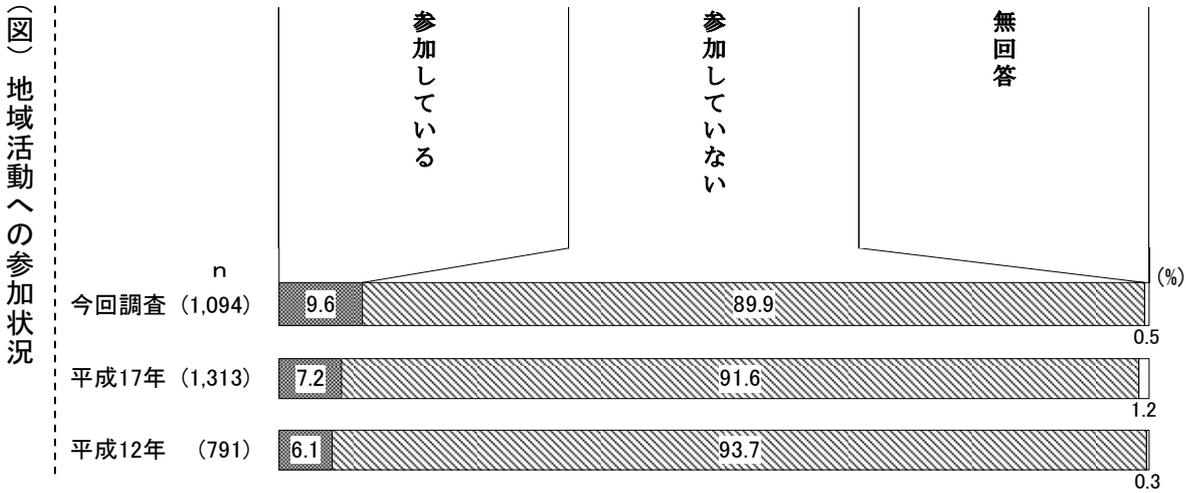
(n=1094)

部活動・団体活動への参加状況			
参加している	623	56.9%	参加理由(上位3位) (n=623)
			やりたいと思っていたことだから 389 62.4%
			友人や仲間を得るため 74 11.9%
			体をきたえるため 48 7.7%
参加していない	465	42.5%	不参加理由(上位3位) (n=465)
			やりたいと思っているグループ活動・団体活動がないから 140 30.1%
			忙しくて時間がとれないから 127 27.3%
			グループ・団体活動に参加してまでやりたいことがないから 69 14.8%
無回答	6	0.5%	
		(単一回答)	(単一回答)

(4) 地域での活動

ア 地域活動への参加状況

経年比較すると、参加割合は微増傾向



地域活動への参加割合は9.6%で、経年比較では、参加割合は微増傾向にある。

活動内容は「祭・運動会などの地域のイベント」や「スポーツ活動（野球・サッカーなど）」の割合が多い。一方、不参加の理由では、「地域でどのような活動が行われているか知らないから」の割合が多くなっており、地域活動の周知・啓発の必要性がうかがえる。

(n=1094)

地域活動への参加状況		活動内容(上位3位) (n=105) (複数回答)	
参加している	105 9.6%	祭・運動会など地域のイベント	46 43.8%
		スポーツ活動(野球・サッカーなど)	32 30.5%
		文化・芸術活動(音楽・ダンスなど)	16 15.2%
参加していない	984 89.9%	不参加理由(上位3位) (n=984) (単一回答)	
		地域でどのような活動が行われているか知らないから	378 38.4%
		地域の活動には興味がないから	184 18.7%
		参加する時間的余裕がないから	173 17.6%
無回答	5 0.5% (単一回答)		

(5) ボランティア活動

ア ボランティア活動への参加状況

ボランティアの参加割合は26.5%、不参加理由のトップはきっかけがないから

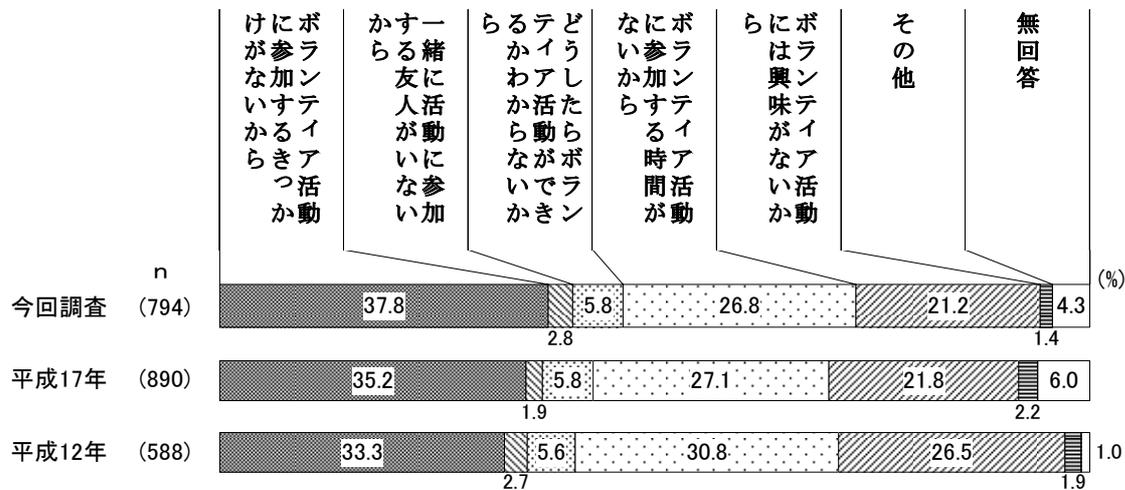
ボランティアの参加割合は26.5%で、性別では女性の参加割合のほうが多い。

活動内容は、「清掃、緑化活動」が最も多く、環境関連の活動が上位を占める。不参加理由は、「ボランティア活動に参加するきっかけがないから」が最も多くなっている。経年比較では、参加するきっかけがない割合が増加傾向にあり、参加の機会づくりの必要性がより高まっている。

(n=1094)

ボランティア活動への参加状況			活動内容(上位3位) (n=290) (複数回答)	
参加している	290	26.5%	清掃、緑化活動	124 42.8%
			ごみ、資源などのリサイクル活動	78 26.9%
			高齢者のための活動	67 23.1%
参加していない	794	72.6%	不参加理由(上位3位) (n=794) (単一回答)	
			ボランティア活動に参加するきっかけがないから	300 37.8%
			ボランティア活動に参加する時間がないから	213 26.8%
			ボランティア活動には興味がないから	168 21.2%
無回答	10	0.9%		
				(単一回答)

(図) ボランティア不参加の理由



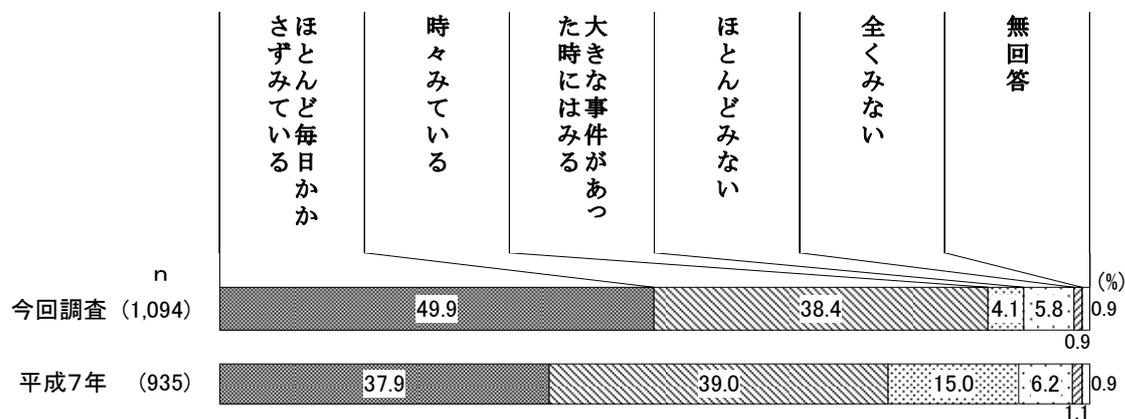
(6) ニュースへの関心

ア ニュースをみる頻度

平成7年度調査と比べて、ニュースをみる頻度は増加

ニュースは「ほとんど毎日かかさずみている」(49.9%)が最も多く、「時々みている」(38.4%)を合わせると、9割弱の方がみている。平成7年度調査に比べると、ニュースをみる頻度は増加した。

(図) ニュースをみる頻度



※平成7年度調査はインターネットを除いた数値

(7) 携帯電話・パソコンの利用状況

ア 携帯電話の所持状況、1日の通話時間及びメール送信回数

9割以上の方が携帯電話を保持、1日のメール送信回数は「5回以下」が最多

携帯電話を持っていない割合は5.6%で、1割に満たない。1日の通話時間は30分未満が74.9%となっている。1日のメール送信回数は、「5回以下」(35.6%)が最も多くなっている。

(n=1094)

1日の携帯電話の通話時間		
0分～30分未満	819	74.9%
30分～1時間未満	111	10.1%
1時間～2時間未満	44	4.0%
2時間～4時間未満	33	3.0%
4時間以上	13	1.2%
携帯電話を持っていない	61	5.6%
無回答	13	1.2%

(単一回答)

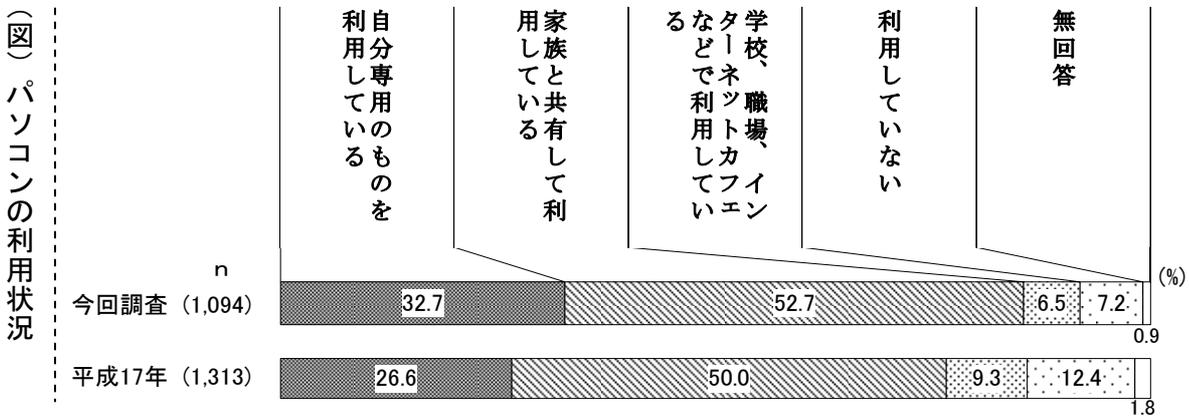
1日のメール送信回数		(n=1020)	
5回以下	363	35.6%	
6～10回	188	18.4%	
11～15回	197	19.3%	
16～20回	58	5.7%	
21～30回	107	10.5%	
31～50回	60	5.9%	
51回以上	34	3.3%	
メールしない	12	1.2%	
無回答	1	0.1%	

(単一回答)

イ パソコンの利用状況

経年比較すると、利用割合は増加、内容としては「映像、画像、音楽の編集」や「テレビ、DVDの鑑賞」の割合が増加

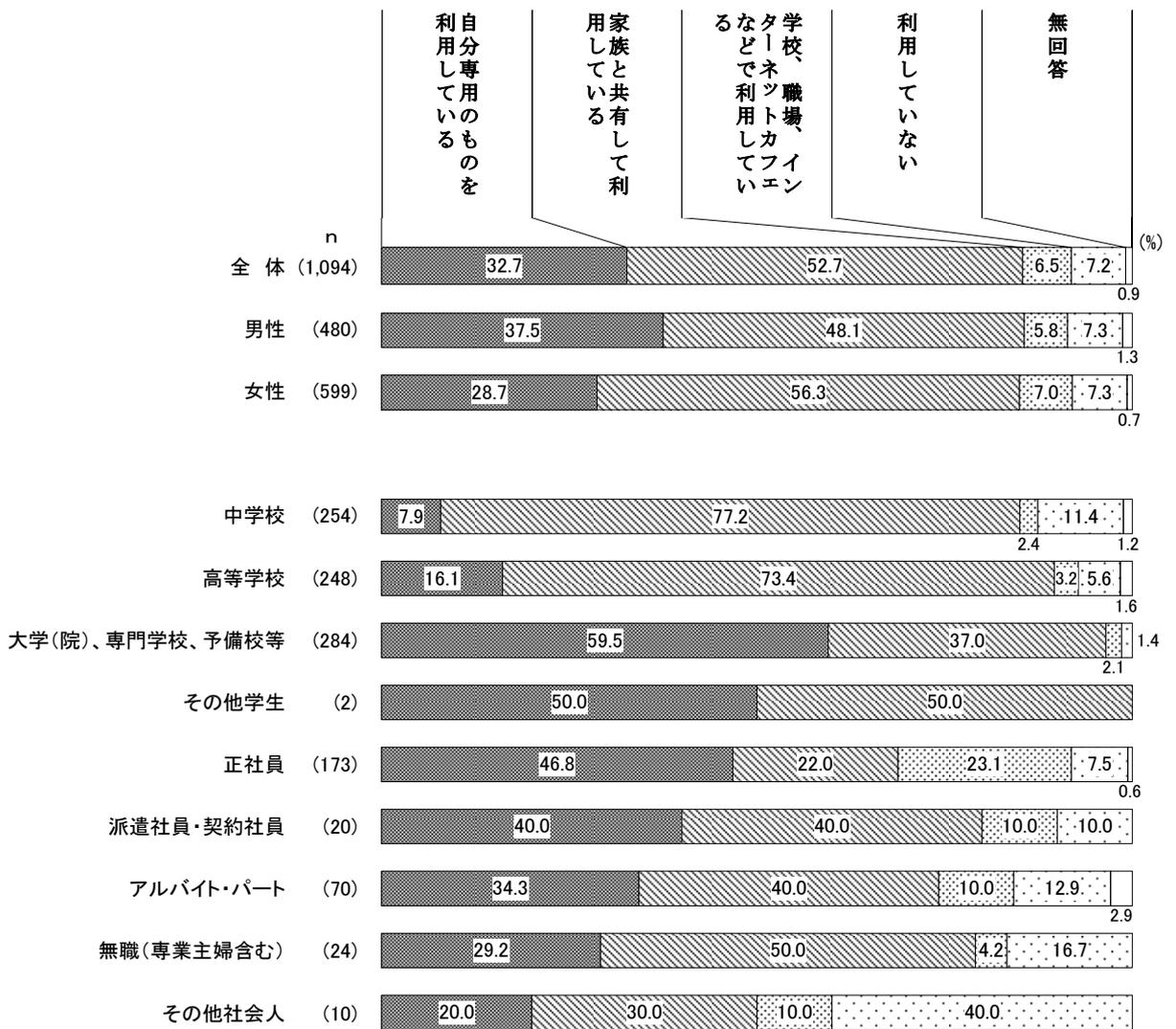
パソコンの利用状況は、「家族と共有して利用している」(52.7%)が最も多く、平成17年度調査と比べると、割合は増加した。「家族と共有して利用している」割合は、【中学校】【高等学校】で7割台と、多くなっている。利用目的は、「インターネットでの情報収集」(78.4%)が最も多く、平成17年度調査と比べると、「インターネットでの情報収集」や「メールをする」割合が減り、「映像、画像、音楽の編集」や「テレビ、DVDの鑑賞」の割合は増加した。



(図) パソコンの利用状況

性別

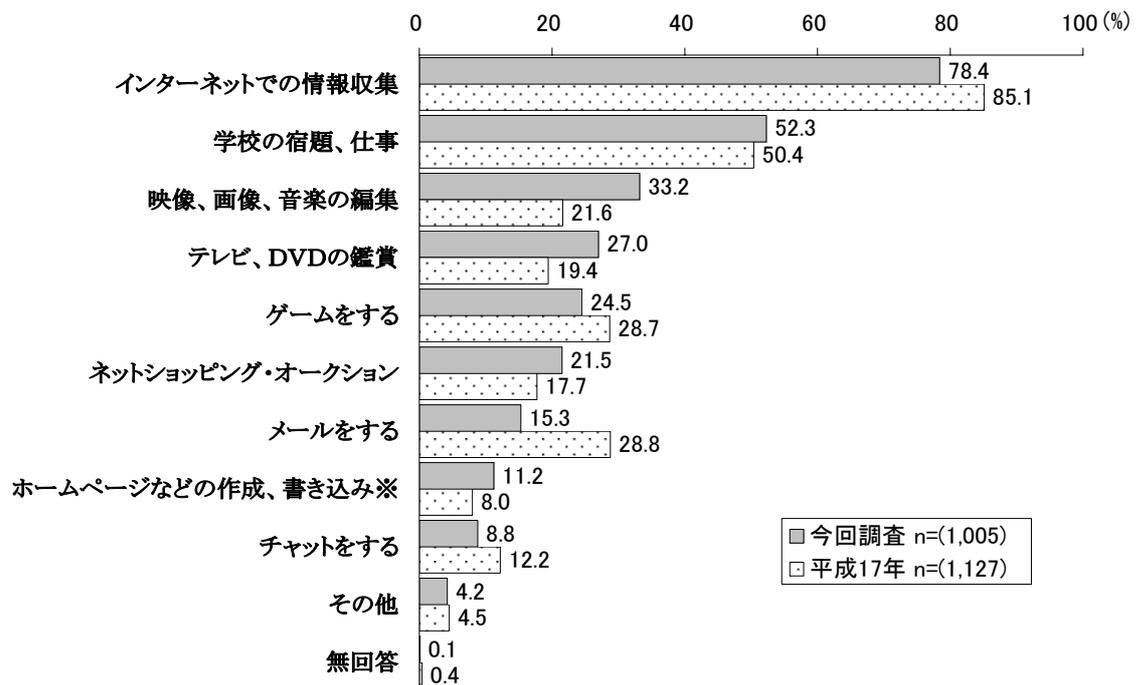
就学・就労



(図) パソコンの利用目的

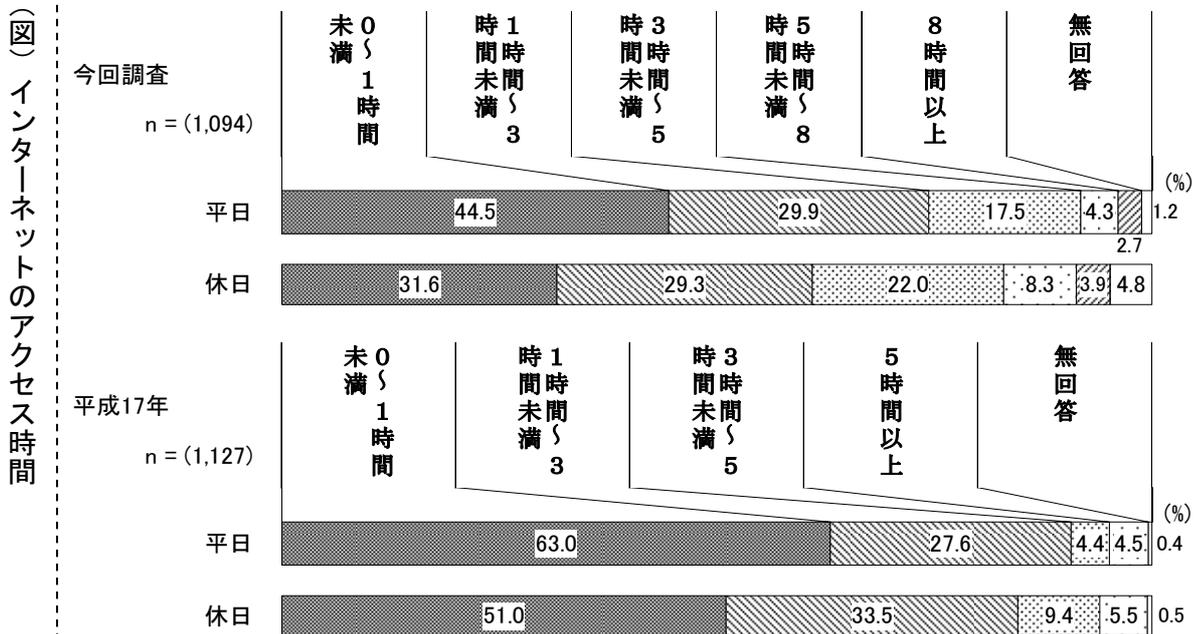
今回調査

平成17年



ウ インターネットへのアクセス時間

1日5時間以上アクセスする人が増加



※平成17年度調査は選択肢が異なるため、比較できる部分のみコメントする

アクセス時間は、平日・休日とも「0～1時間未満」が最も多いが、平成17年度調査に比べ、5時間以上利用している人が平日4.4%から7.0%、休日5.5%から12.2%へ増加している。

エ フィルタリングソフト

経年比較すると、認知度は大きく増加

認知度は約7割で、平成17年度調査の35.6%に比べて、認知度は大きく増加した。利用割合は24.5%となっている。

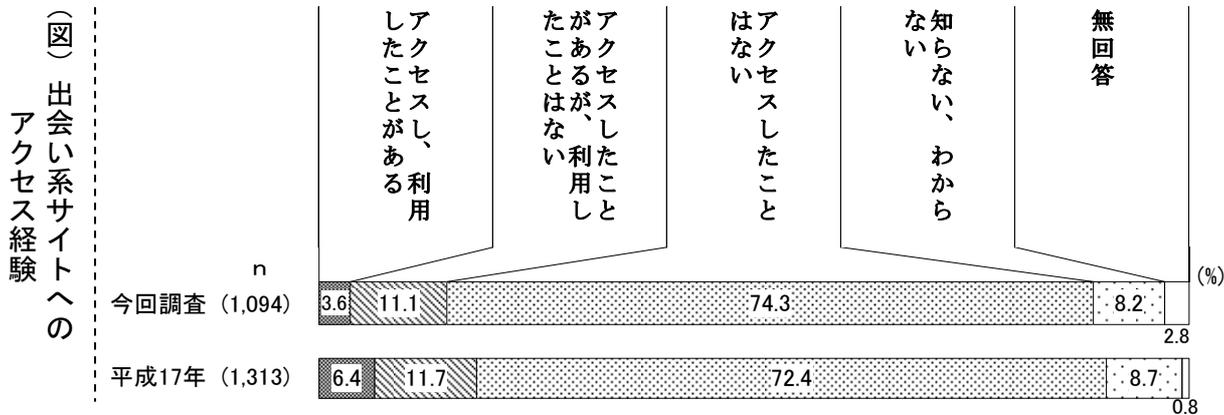
また、知り得た手段としては、「新聞、雑誌、テレビ、インターネットなど」が最も多くなっている。

(n=1094)

フィルタリングソフトの認知度		利用状況 (n=758) (単一回答)	
知っている	758 69.3%	現在、利用している	186 24.5%
		利用していない	426 56.2%
		前に利用していたが、今は利用していない	63 8.3%
		利用しているかはわからない	82 10.8%
		無回答	1 0.1%
		知ったきっかけ(上位3位) (n=758) (複数回答)	
		新聞、雑誌、テレビ、インターネットなど	351 46.3%
		パソコン・携帯電話の会社など	203 26.8%
		両親、家族から教えてもらった	160 21.1%
知らなかった	324 29.6%		
無回答	12 1.1%		
	(単一回答)		

オ 出会い系サイトへのアクセス経験

アクセス経験ありは14.7%



“アクセス経験あり”の割合は14.7%で、平成17年の18.1%に比べ、少なくなっている。

カ インターネットトラブル

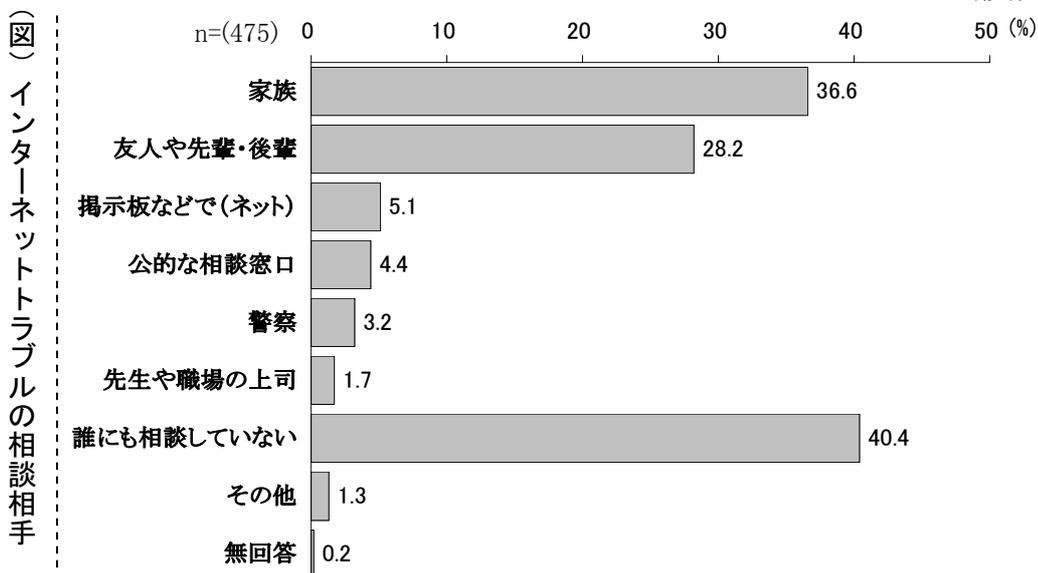
半数以上の方が被害なしと回答、被害内容では迷惑メールが最多

54.2%の方が「被害にあったことがない」と回答している。トラブル内容としては、迷惑メールの送付が最も多かった。また、トラブル時の相談先は、約4割の方が「誰にも相談していない」と回答している。相談体制や情報提供の必要性がうかがえる。相談相手としては、「家族」、「友人や先輩・後輩」の割合が多かった。

(n=1094)

インターネットトラブル被害経験の内容(上位5位)		
迷惑メールが頻繁に送られてきた	338	30.9%
身におぼえのない料金を請求された	159	14.5%
知らないうちに会員登録や契約をしてしまった	112	10.2%
コンピューターウイルスなどに感染した	72	6.6%
掲示板、プロフ、ブログやメールなどで中傷やいやがらせを受けた	49	4.5%
被害にあったことはない	593	54.2%

(複数回答)

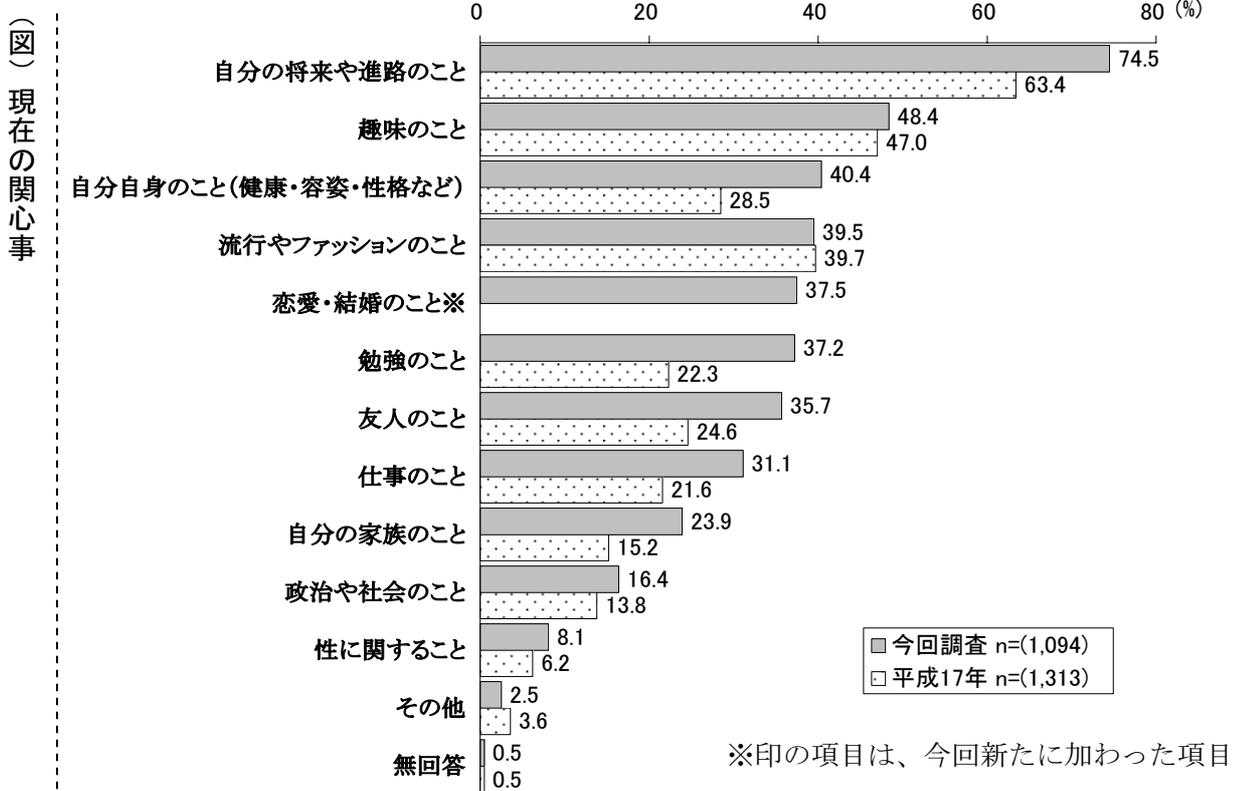


2 青少年の意識

(1) 青少年の意識

ア 現在の関心事

「自分の将来や進路のこと」が最多、また、平成17年度に比べて増加

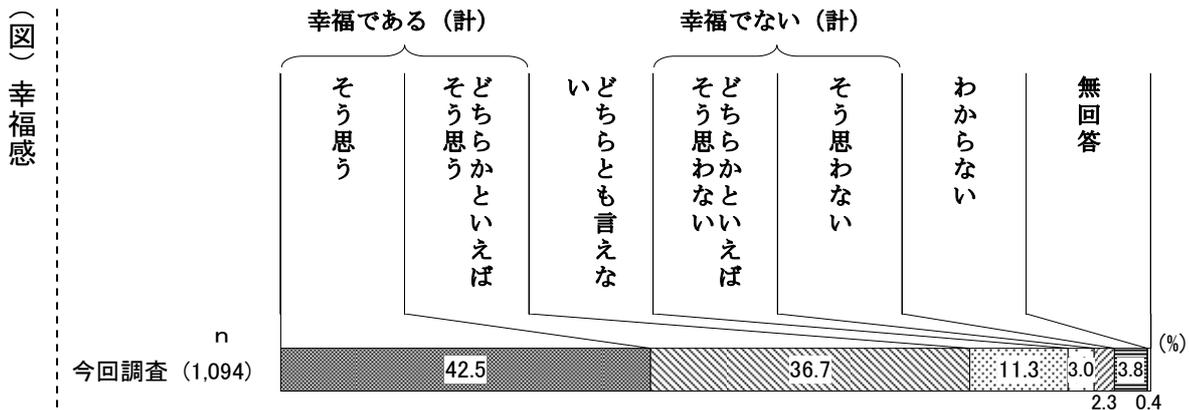


現在の関心事は「自分の将来や進路のこと」(74.5%)が最も多く、平成17年度調査に比べて、その割合は増加した。

イ 幸福感

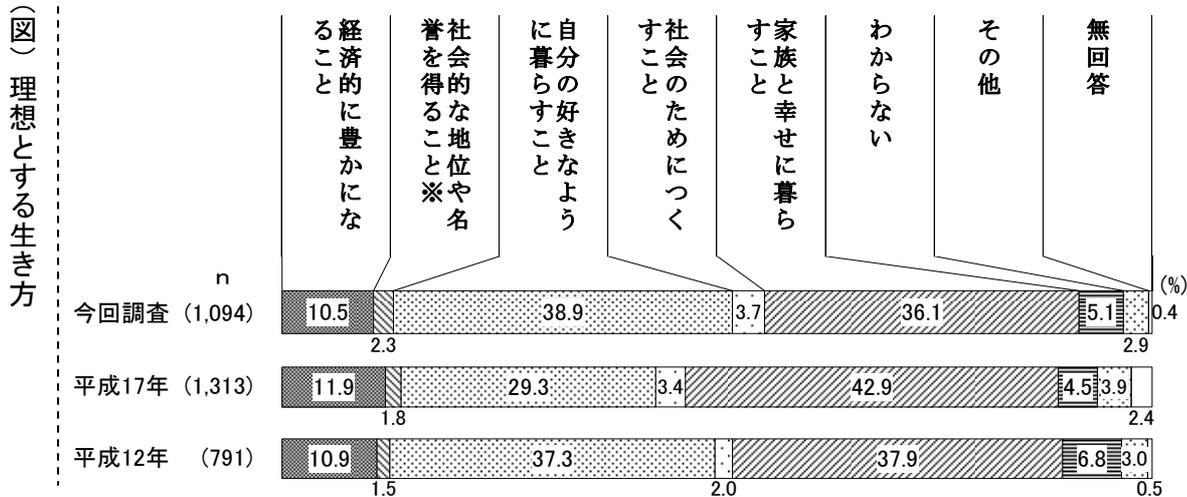
8割弱の方が“幸福である(計)”と回答

“幸福である(計)”の割合は79.2%であり、“幸福でない(計)”の5.3%を大きく上回った。



ウ 理想とする生き方

経年比較では、「自分の好きなように暮らすこと」の割合が増加

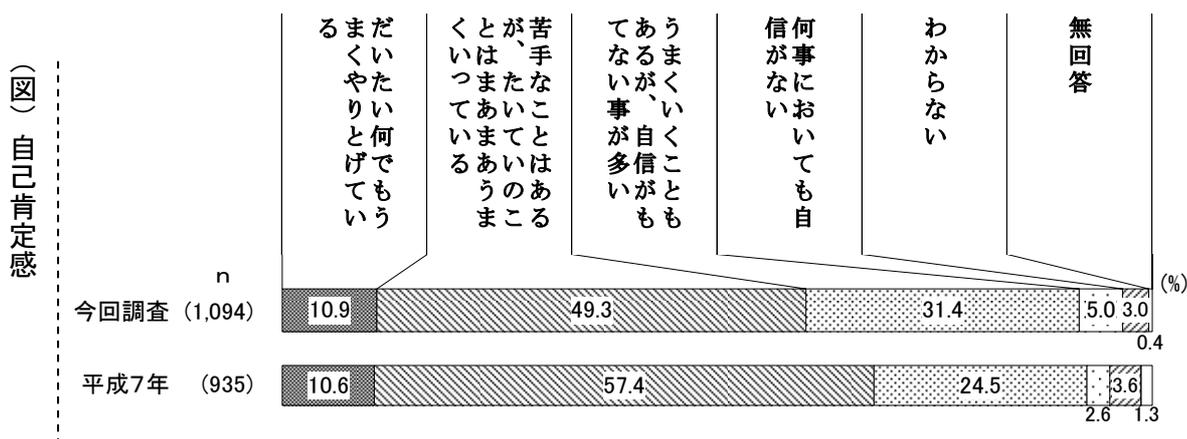


※印の項目は、平成17年度調査までは「社会的な地位を得ること」

理想とする生き方は「自分の好きなように暮らすこと」(38.9%)、「家族と幸せに暮らすこと」(36.1%)の割合が特に多くなっている。経年比較では、今回調査で「自分の好きなように暮らすこと」の割合が増え、以前は「家族と幸せに暮らすこと」が最も多かったのが、「自分の好きなように暮らすこと」に変わった。

エ 自己肯定感

自身の行動を振り返り、約6割の方が“うまくいっている”と回答



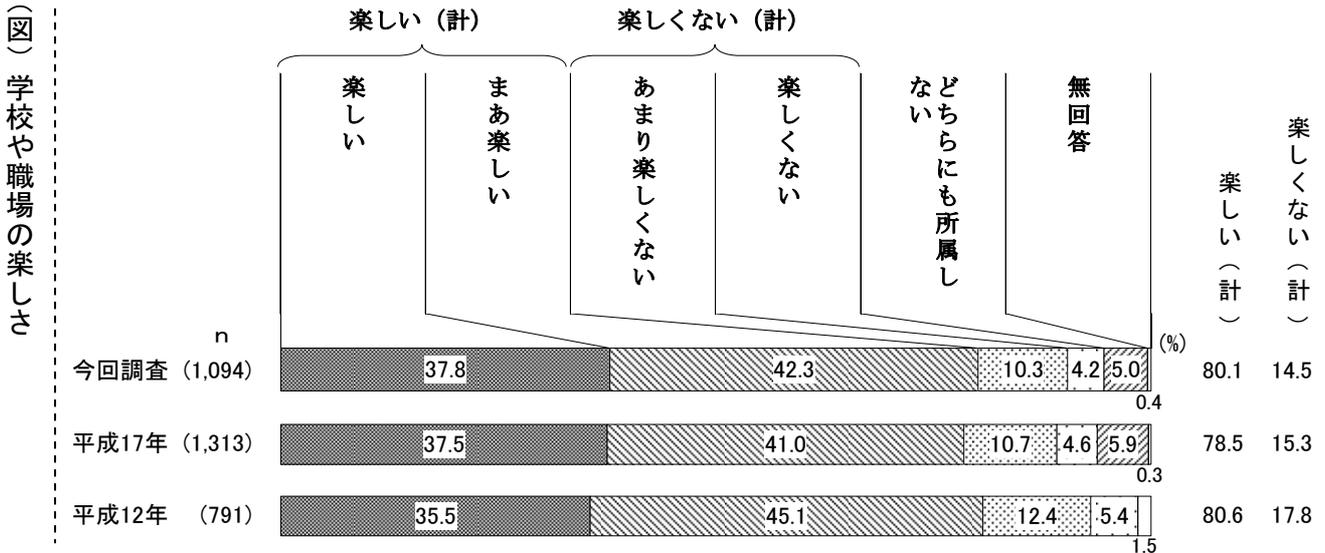
ふだんの自身の行動を振り返り、“うまくいっている”と思う方の割合は60.2%で、平成7年度調査に比べて、その割合は減少した。

オ 学校や職場の楽しさ

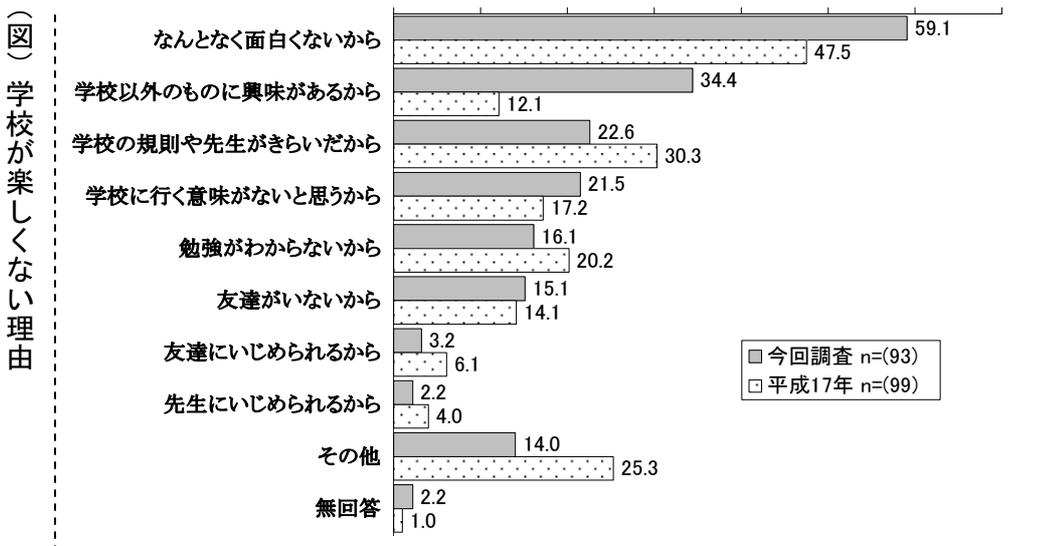
約8割の方が“楽しい(計)”と回答

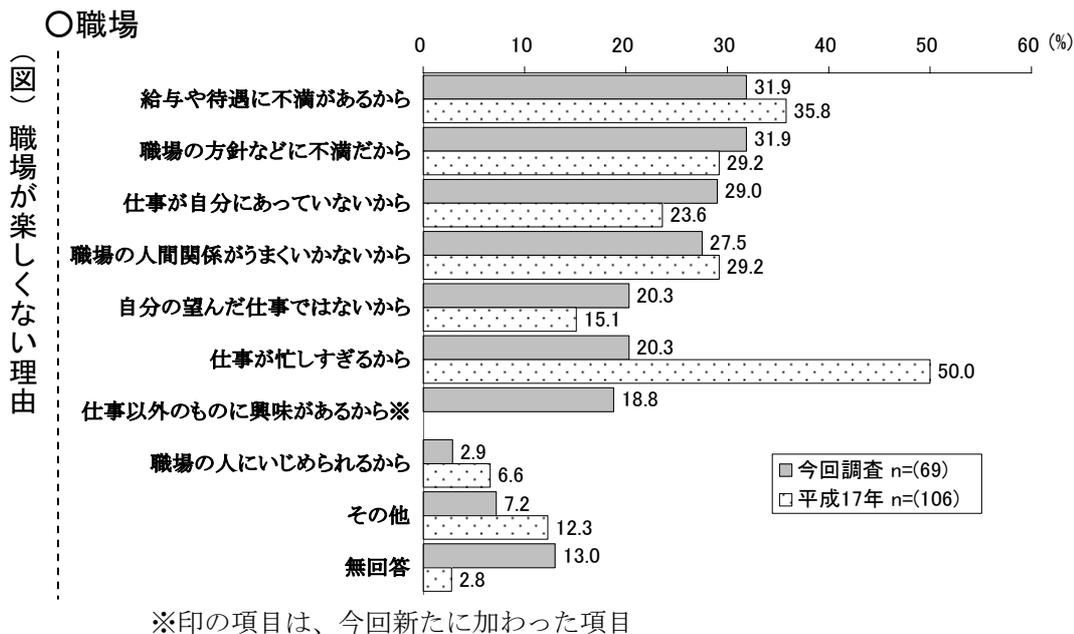
“楽しい(計)”と感じている方の割合は80.1%となっている。

楽しくない理由としては、学校の場合、「なんとなく面白くないから」、職場の場合、「給与や待遇に不満があるから」「職場の方針などに不満だから」「仕事が自分にあっていないから」の割合が多かった。



○学校





カ 働くうえで求めるもの

「経済的にゆたかな生活を送りたい」が最多

「経済的にゆたかな生活を送りたい」(49.4%)、「精神的にゆとりのある生活を送りたい」(33.7%)の順で多かった。

(n=1094)

働くうえで求めるもの(上位5位)		
経済的にゆたかな生活を送りたい	540	49.4%
精神的にゆとりのある生活を送りたい	369	33.7%
社会に出て自分の世界を広げたい	262	23.9%
自分の能力を試したい	261	23.9%
仕事を生きがいにしたい	226	20.7%

(複数回答)

キ 仕事を選ぶ際、重視すること

「職場の雰囲気や人間関係」や「自分の好きなことや、やりたい仕事内容」が多い

「職場の雰囲気や人間関係」と「自分の好きなことや、やりたい仕事内容」の割合が特に多くなっている。

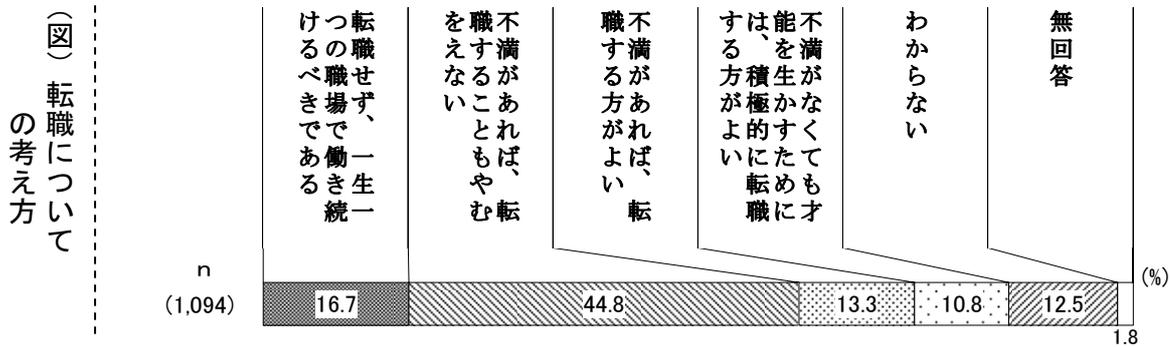
(n=1094)

仕事を選ぶ際、重視すること(上位5位)		
職場の雰囲気や人間関係	667	61.0%
自分の好きなことや、やりたい仕事内容	667	61.0%
給料が高いこと	402	36.7%
事業が安定していて、長い年数働き続けられること	307	28.1%
専門的な知識や技能を活かし、伸ばせること	249	22.8%

(複数回答)

ク 転職についての考え方

「不満があれば、転職することもやむを得ない」が最多



「不満があれば、転職することもやむを得ない」(44.8%)が最も多くなっている。

ケ 就職する上で有利になると思うこと

「コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力」や「資格」を重視

「コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力」(57.2%)が最も多くなっている。
(n=1094)

就職する上で有利になると思うこと(上位5位)		
コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力	626	57.2%
資格	539	49.3%
学歴	320	29.3%
海外経験や語学力	219	20.0%
パソコンなどのIT技能	144	13.2%

(複数回答)

コ 結婚についての考え方

“結婚肯定派”が約7割

「結婚すべきだ」「結婚したほうがよい」を合わせた“結婚肯定派”が69.2%となっている。

結婚したほうがよい理由としては、「自分の子どもや家族をもてる」(73.4%)の割合が特に多く、一方、結婚しなくてもよい理由では、「自分の趣味や娯楽を楽しむことができる」(52.6%)や「1人でも不便を感じない」(43.8%)の割合が多かった。

(n=1094)

結婚についての考え方			結婚したほうがよい理由(上位3位) (n=757)		
結婚すべきだ	292	26.7%	自分の子どもや家族をもてる	556	73.4%
結婚したほうがよい	465	42.5%	精神的な安らぎの場が得られる	435	57.5%
			愛情を感じている人と暮らせる	404	53.4%
わからない	188	17.2%	結婚しなくてもよい理由(上位3位) (n=137)		
結婚しなくてもよい	126	11.5%	自分の趣味や娯楽を楽しむことができる	72	52.6%
結婚しないほうがよい	11	1.0%	1人でも不便を感じない	60	43.8%
			経済的に余裕のある暮らしができる	33	24.1%
無回答	12	1.1%			

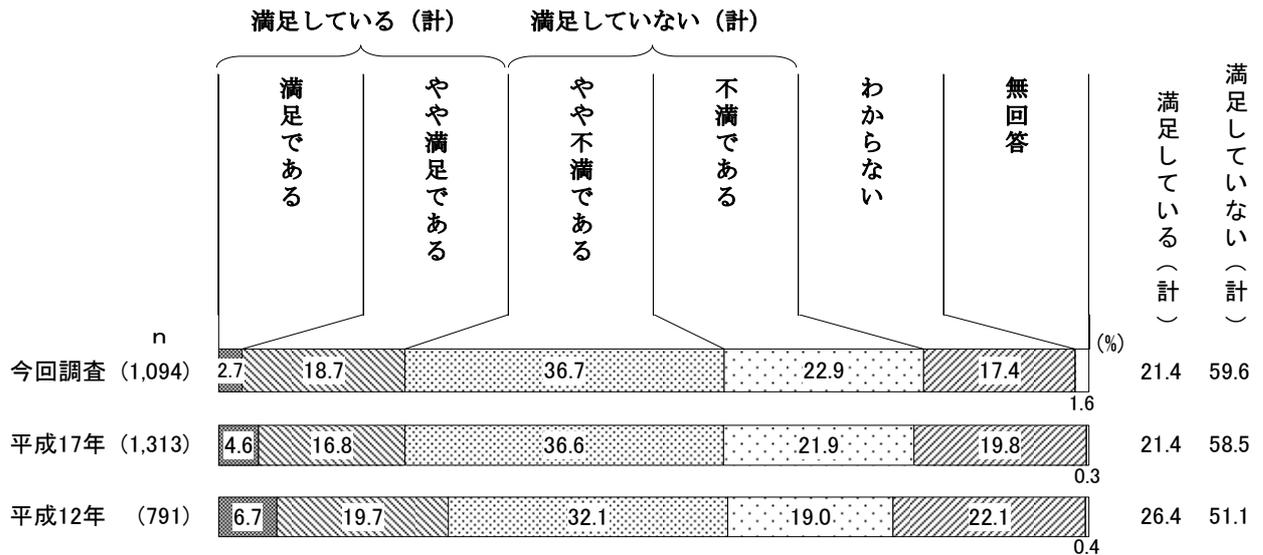
(単一回答) (複数回答)

サ 社会に対する満足度

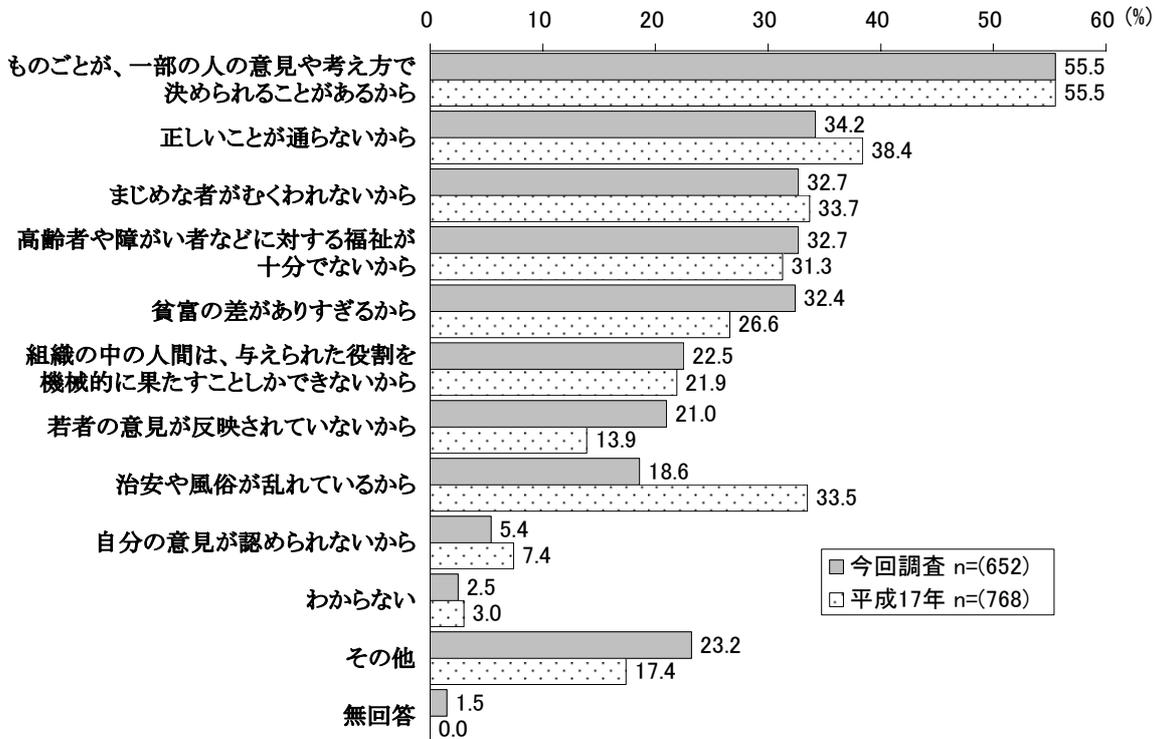
約6割の方が“満足していない（計）”と回答

現在の日本社会について、約6割の方が“満足していない（計）”と回答しており、“満足している（計）”の21.4%を大きく上回る結果となった。満足していない理由としては、「ものごとが、一部の人の意見や考え方で決められることがあるから」（55.5%）の割合が特に多くなっている。

（図）社会に対する満足度



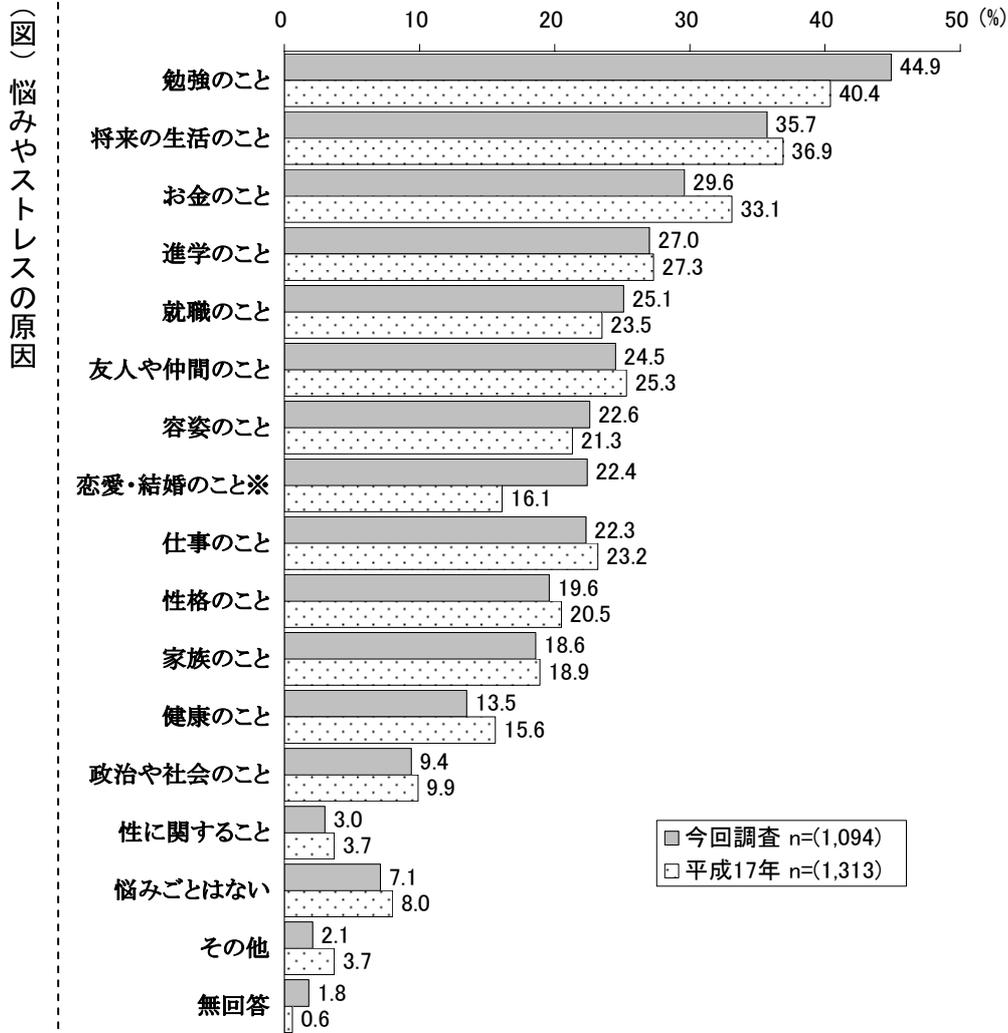
（図）社会に対する不満の理由



シ 悩みやストレスの原因

「勉強のこと」が最多

悩みやストレスの原因は「勉強のこと」(44.9%)が最も多く、平成17年度調査と比較して、その割合は増加した。



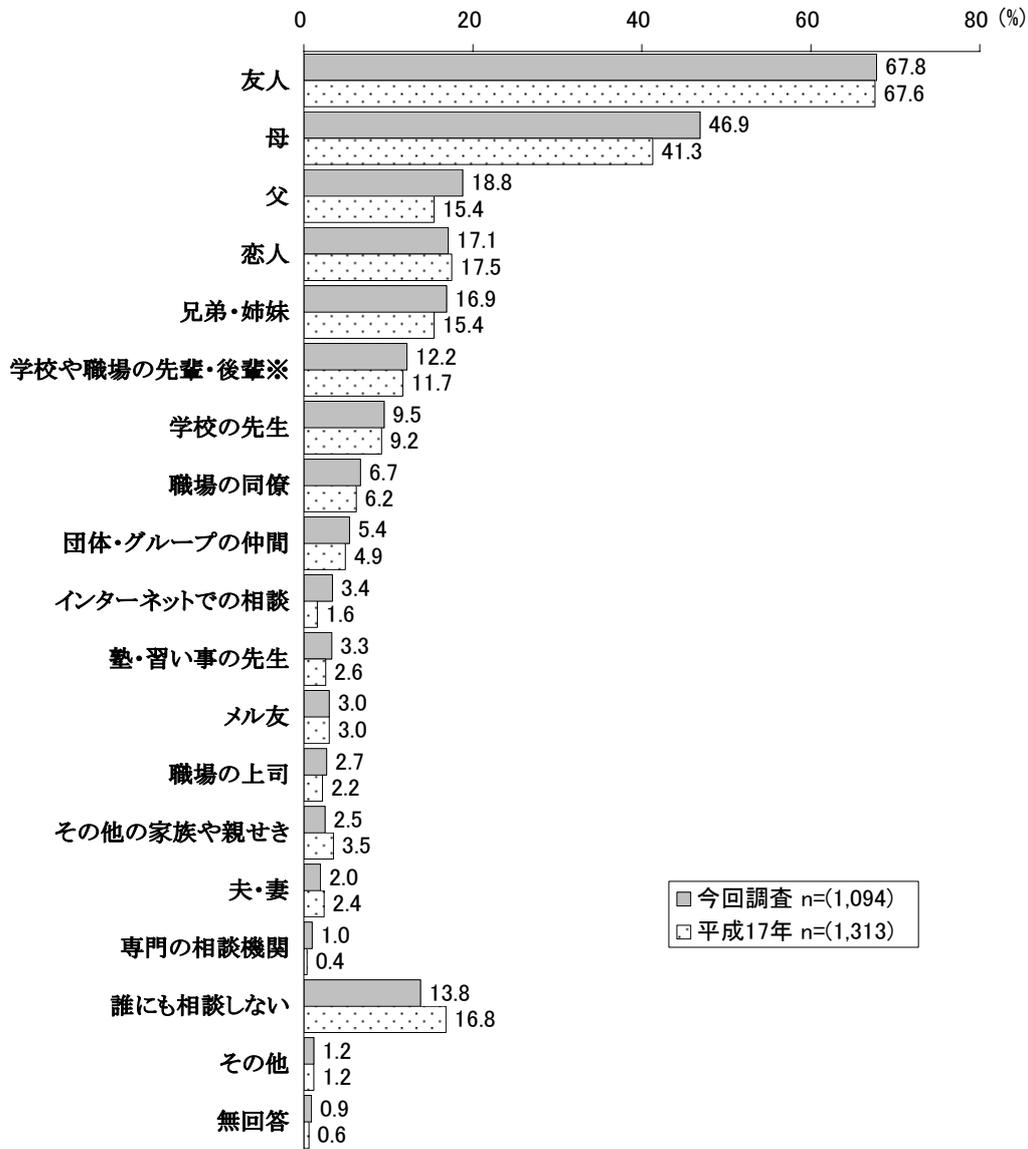
※印の項目は、平成17年度調査では「異性との交際のこと」

ス 悩みごとの相談相手

相談相手は、「友人」(67.8%)、「母」(46.9%)の順

悩みごとの相談相手は、「友人」(67.8%)、「母」(46.9%)の順で、平成17年度調査と変わりはなかったが、前回調査に比べ、「母」「父」の割合は増加した。

(図) 悩みごとの相談相手



※印の項目は、平成17年度調査では「自分の欠点をからかわれた」「メールで悪口をいろんな人に送られた」

(2) 社会の問題

ア この1年のいじめ、いやがらせの経験

4割強の方がいじめ・いやがらせの経験あり

1年間にいじめ・いやがらせの経験のない割合は57.9%であった。いじめ・いやがらせの内容としては、「ばかにされたり、悪口をいわれた」(21.1%)と「自分の欠点や弱点をからかわれた」(19.6%)の割合が比較的多くなっている。

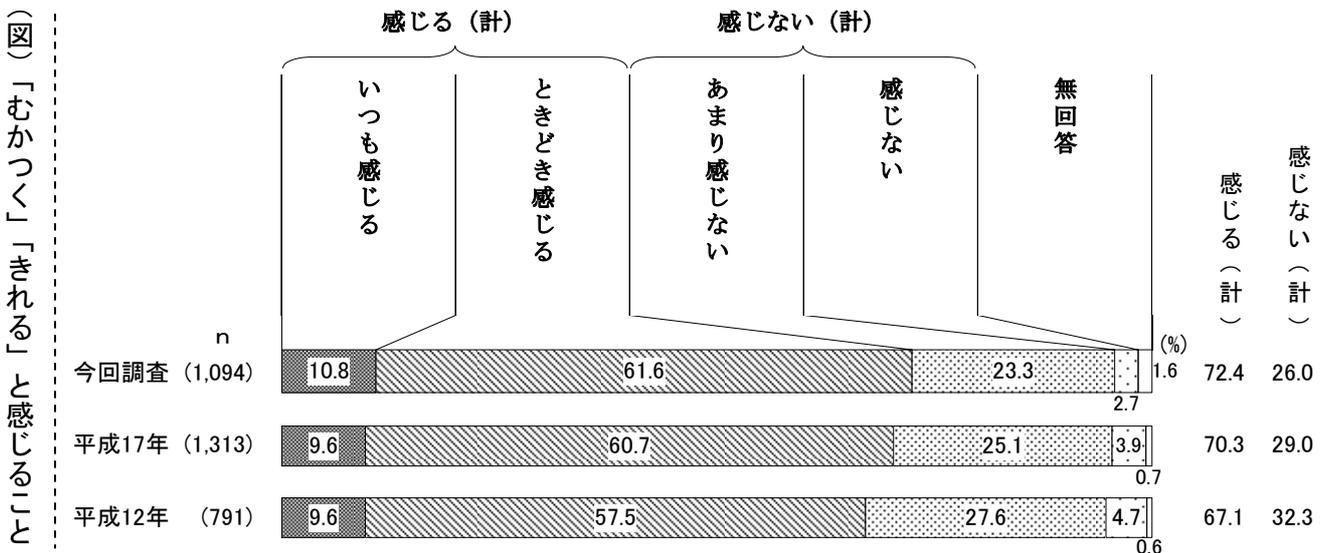
(n=1094)

この1年のいじめ、いやがらせの経験(上位5位)		
ばかにされたり、悪口をいわれた	231	21.1%
自分の欠点や弱点をからかわれた	214	19.6%
真面目な意見をいったり、良い成績をとると、冷やかされたり、いやみを言われたりした	95	8.7%
仲間はずれにされたり、無視されたりした	53	4.8%
いたずら電話や変な電話、メール、手紙が送られてきた	51	4.7%
以上のようなことは、この1年間にされなかった	633	57.9%
		(複数回答)

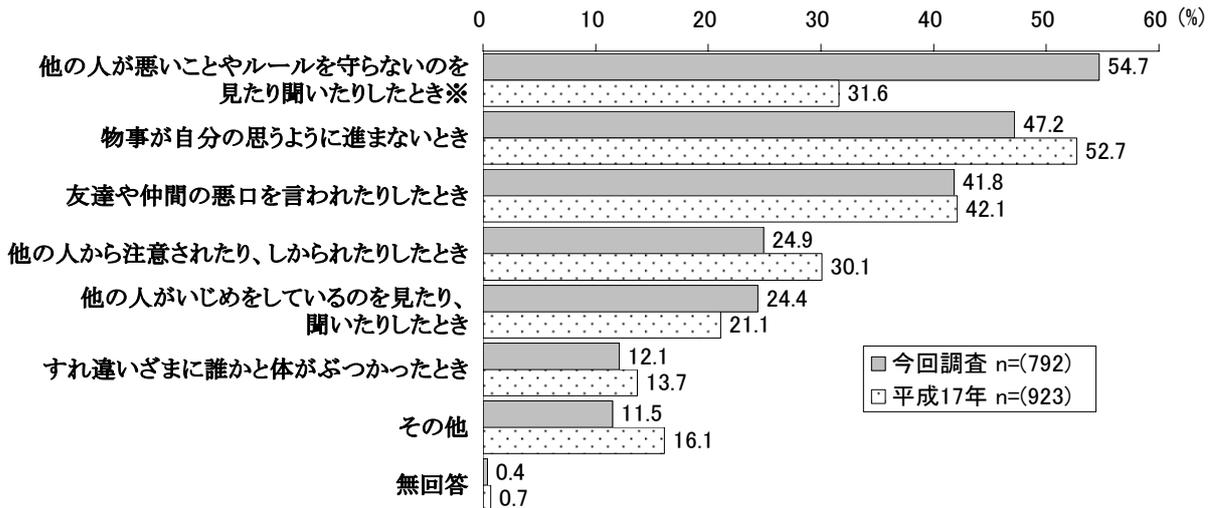
イ 「むかつく」「きれる」と感じること

「むかつく」・「きれる」と“感じる(計)”が7割強と増加傾向

「むかつく」・「きれる」と“感じる(計)”割合は72.4%で、経年比較すると、増加傾向にある。「むかつく」・「きれる」と感じる内容は、「他の人が悪いことやルールを守らないのを見たり聞いたりしたとき」(54.7%)が最も多くなっている。



(図) 「むかつく」「きれる」と感じるとき



※印の項目は、平成17年度調査では「他の人が禁止行為や違反行為をしているのを見たり、聞いたりしたとき」

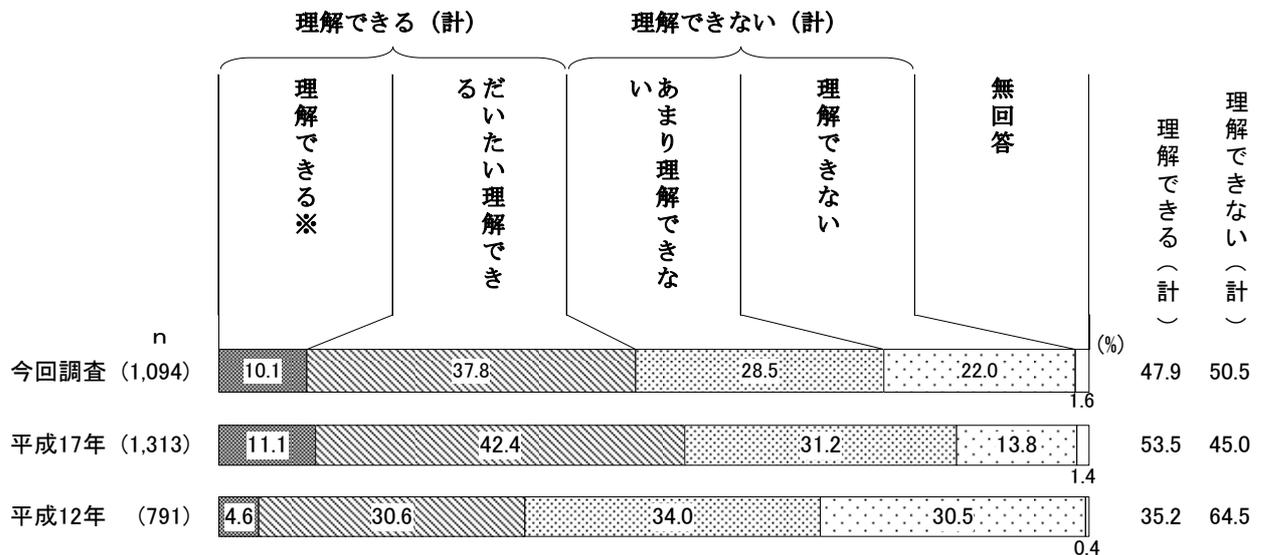
ウ 非行する人への理解

5割弱の方が非行する人に“理解できる(計)”と回答

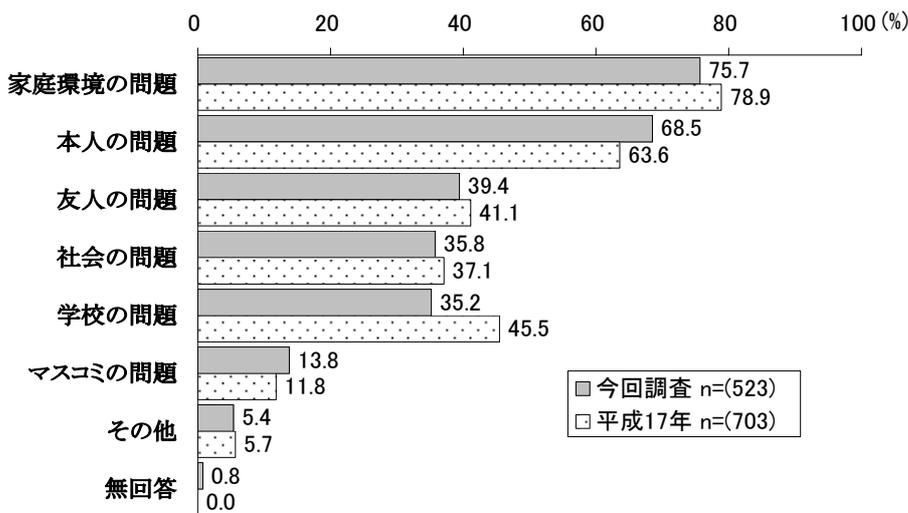
5割弱の方が非行する人に“理解できる(計)”と回答している。

非行の原因としては、「家庭環境の問題」(75.7%)と考えている人の割合が最も多くなっている。

(図) 非行する人への理解



(図) 非行の原因



エ 非行防止策

「親と子どもが積極的に会話をし、ふれあう機会を多く持つこと」が最多

非行防止策としては、「親と子どもが積極的に会話をし、ふれあう機会を多く持つこと」(59.2%)、「親や保護者が手本となるような生活態度を示すこと」(48.0%)の順に多く、親子の関係に関するものが多かった。

(n=1094)

非行防止策(上位5位)		
親と子どもが積極的に会話をし、ふれあう機会を多く持つこと	648	59.2%
親や保護者が手本となるような生活態度を示すこと	525	48.0%
子どもの自主性を尊重し、過保護、過干渉にならないようにすること	518	47.3%
生命や物の大切さをもっと教えること	396	36.2%
社会全体がモラルを高めること	367	33.5%

(複数回答)

オ 好きな場所・一緒に行く人・目的

場所「デパート、ショッピングセンター」、相手「友人」、目的「楽しさ」

よく行く好きな場所や楽しい場所は「デパート、ショッピングセンター」(17.4%)、一緒に行く人は「友人」(57.4%)、求めるものは「楽しさ」(31.7%)、それぞれ割合が多かった。

(n=2086)

好きなところ・楽しい場所(上位3位)		
場所	デパート、ショッピングセンター	364 17.4%
	カラオケボックス	204 9.8%
	学校	193 9.3%
相手	友人	1,197 57.4%
	一人で	469 22.5%
	家族	227 10.9%
目的	楽しさ	662 31.7%
	リフレッシュ	339 16.3%
	友達、仲間との時間	337 16.2%

(複数回答)

3 行政施策の認知度、要望

(1) 行政施策の認知度、要望

ア 施設の認知度・利用状況

認知度の上位3つは「図書館」、「等々力陸上競技場」、「とどろきアリーナ」

認知度の高い施設は、上位から「図書館」(89.3%)、「等々力陸上競技場」(78.0%)、「とどろきアリーナ」(76.7%)の順で、平成17年度調査と比べると、「ミュージア川崎シンフォニーホール」の認知度が17.4ポイント増と大きく増加した。利用経験の多い施設は、「図書館」(79.2%)、「八ヶ岳少年自然の家」(60.3%)、「プール」(58.3%)の順であった。

【認知度（上位10項目）】

順位	今回	平成17年度
1	図書館 89.3%	図書館 91.7%
2	等々力陸上競技場 78.0%	とどろきアリーナ 83.9%
3	とどろきアリーナ 76.7%	等々力陸上競技場 82.8%
4	プール 75.2%	プール 76.1%
5	こども文化センター 69.5%	こども文化センター 71.0%
6	岡本太郎美術館 68.5%	スポーツセンター、体育館 70.6%
7	八ヶ岳少年自然の家 66.2%	岡本太郎美術館 66.9%
8	スポーツセンター、体育館 65.4%	市民館・教育文化会館 66.7%
9	ミュージア川崎シンフォニーホール 62.5%	市民ミュージアム 65.8%
10	市民館・教育文化会館 61.9%	八ヶ岳少年自然の家 65.2%

※認知度：定期的にご利用している＋何回か利用している＋1度くらい利用した＋知っているが利用したことはないの合計

【利用経験あり（上位10項目）】

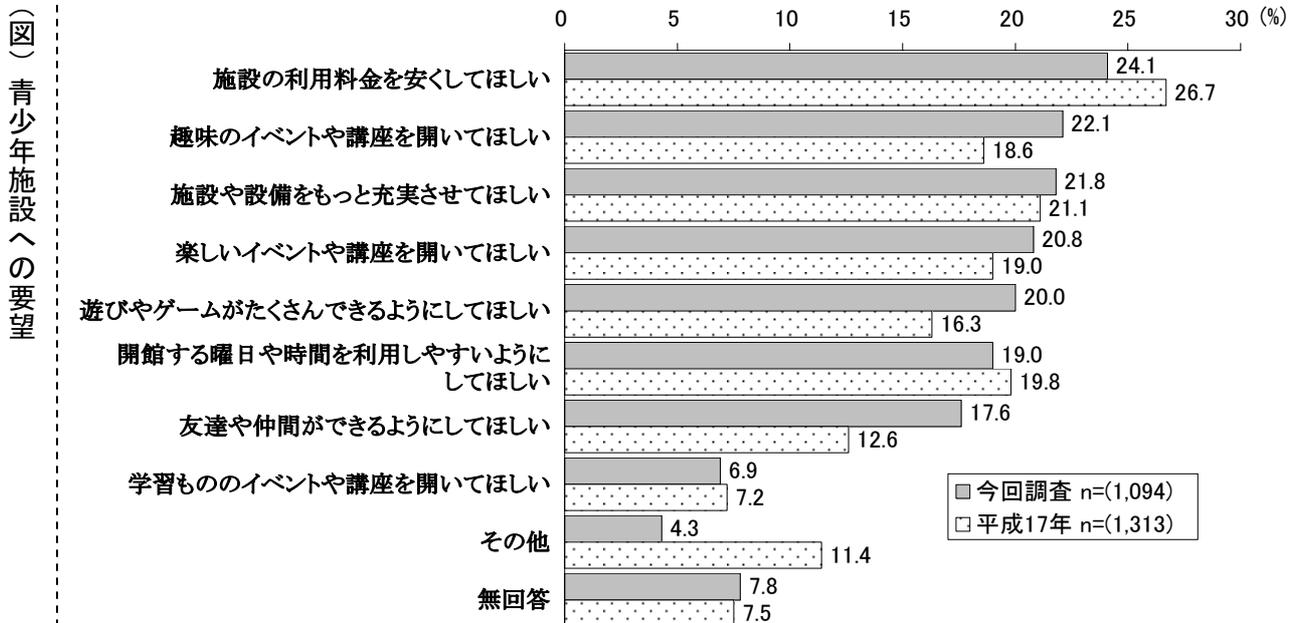
順位	今回	平成17年度
1	図書館 79.2%	図書館 82.4%
2	八ヶ岳少年自然の家 60.3%	等々力陸上競技場 62.9%
3	プール 58.3%	とどろきアリーナ 60.5%
4	こども文化センター 56.6%	プール 57.4%
5	とどろきアリーナ 50.9%	八ヶ岳少年自然の家 56.7%
6	等々力陸上競技場 50.0%	こども文化センター 54.8%
7	市民館・教育文化会館 42.2%	市民館・教育文化会館 45.0%
8	岡本太郎美術館 41.2%	スポーツセンター、体育館 41.6%
9	スポーツセンター、体育館 38.2%	市民ミュージアム 40.8%
10	市民ミュージアム 37.7%	岡本太郎美術館 25.4%

※利用経験あり：定期的にご利用している＋何回か利用している＋1度くらい利用したの合計

イ 青少年施設への要望

「施設の利用料金を安くしてほしい」(24.1%) が最多

青少年施設への要望は、上位から「施設の利用料金を安くしてほしい」(24.1%)、「趣味のイベントや講座を開いてほしい」(22.1%) となっている。



ウ 青少年の政策に望むこと

居場所づくり、障がいのある子や虐待を受けている子などの支援、相談窓口の充実

要望としては、「放課後などに安全に遊べる居場所をつくる」(35.0%)、「障がいのある子や、虐待を受けている子などを支援する」(34.9%)、「いじめや虐待などの悩みに対応した相談窓口を充実させる」(32.4%) の順となっている。

(n=1094)

青少年の政策に望むこと(上位10位)		
放課後などに安全に遊べる居場所をつくる	383	35.0%
障がいのある子や、虐待を受けている子などを支援する	382	34.9%
いじめや虐待などの悩みに対応した相談窓口を充実させる	355	32.4%
薬物やたばこなどの有害なものから子どもたちを守る環境づくりをする	319	29.2%
不登校やニートなど、問題を抱え社会に出られない人が自立できるように支援する	293	26.8%
「安心して生きる権利」や「自分で決める権利」など、子どもの権利を保障する事業を進める	276	25.2%
いろいろな授業を取り入れるなど、学校教育を充実させる	236	21.6%
地域の見回りなど、青少年の非行や犯罪被害の防止につとめる	227	20.7%
地域の人とふれあい、様々な体験をする社会参加の機会をつくる	202	18.5%
子どもが自分の意見を発表できる機会をつくる	163	14.9%

(複数回答)